

## 巻頭言

### 激動の時代にこそ大切にしたいこと

### What We Hold Dear in Times of Turbulence



常務執行役員 梅下 隆一  
Ryuichi Umeshita

自動車産業は“100年に一度の大変革”と呼ばれる転換点の真っ只中です。電動化、コネクテッド技術、自動運転、シェアリングといったCASE革命や気候変動問題への対応としてのカーボンニュートラル実現……私たちが直面している課題は、これまでの常識を超える新たな価値の創出を求めています。また、現代社会は、生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な進化によって、かつて想像もつかなかったほどの変化を遂げようとしています。

……実は、上記は主にChatGPTに書いてもらったものです。残念ですが、私自身が書くよりもよほどの確かな文章です。まさに想像もつかなかったほどの変化です。

さて、このような技術進化とともにやって来る世界を少しイメージしてみましょう。人がはじめて自らをはるかに上回る知性ととも生きる世界。生成AIや自動運転技術、電動化の進展は、社会や産業構造に大きな変化をもたらすはずで。そしてその進化・変化のスピードはかつて人類が経験したことがないものになるでしょう。私は、このような時代だからこそ、「私たち人間はこの技術進化とどう向き合っていくのか？そして“人間自身”が大切にすべきことは何なのか？」を改めて考える必要があるように思います。

私は、こうした妄想をしながら二つの事を思い浮かべています。それは人と人のつながり（ネットワーク）と多様性の必要性と、日本の精神性の可能性です。

まず一つ目のネットワーク・多様性ですが、いま私がこの文章を書く上でChatGPTを活用したと述べました。すなわち私は誰とも会話を交わさずに、この文章を書き終えるツールを手にしてしています。しかし、そもそも人類の創造活動・進化・イノベーションが、常に人と人のネットワークとそこで生まれる多様性を母体としてきた事実は皆さんご承知の通りです。人々がこのまま生成AIと向き合いながら日々の業務を粛々とこなし続けると、ともすると周囲とのコミュニケーション、ひいてはネットワーキングや多様性の拡大が減速していく恐れはないでしょうか？人間は、その進化の過程で周囲とのつながりや共創の過程そのものを楽しみ、その成果を喜ぶように進化してきました。変わりゆく社会の中でさらに多くのイノベーションを生み出すために、そして私たち自身が今後も変わらず喜びに満ちた生活を送り続けるためにも、私たちは生成AI等の技術の進化を上手に取り込みつつ、個人としても企業としても、意識的にさらなる多くの仲間づくり、ネットワークづくりをしていくことが必要なのではないでしょうか。

そして二つ目の視点は日本の精神性です。生成AIがもたらす効率や高度なデータ分析は、課題解決のスピードを飛躍的に向上させます。しかし、その技術が「どのように使われるか」「どのような結果を生むか」

あるいは「どのように人間の感情に訴えかけるか」は最終的に人間の価値観と判断に委ねられます。振り返ってみると、産業革命以降の技術進化は、人間が自然を征服・支配し、それを“資源”と捉えて発展してきたように思います。しかし、もはやそのような価値観に基づいた進化が臨界点に達しつつあることは、地球や社会の様々な、ともすると解決不可能に思える課題や情勢等から、私たち自身が肌感覚として感じはじめています。

私は、このような状況に対して“日本的な精神性”が少なからず示唆を与えてくれる可能性があるのでは、と考えています。それは以下のように様々な側面で語ることができそうですが、いずれも世界に類を見ない独自性に満ちているように思います。

- ・自然を畏敬の対象ととらえ、山、川、木をはじめあらゆるものに神が宿るとする自然崇拝の精神。
- ・茶道、書道、武道などあらゆる活動に、肉体のみならず精神を含んだ自らのすべてをささげることで、自己を超越した高みや深遠に到達するという、結果よりも過程を重視する精神。
- ・そして、これら自然崇拝や道具や人工物に対する捉え方から、神々が宿る自然や、魂が宿る道具とを調和させ共生していく、という“共生”“調和”の精神。
- ・神に対する感性：一神教における神のような絶対的かつ全知全能な存在ではなく、自然や事物のすべてに宿る神々を尊重する精神性。自分の周囲のものすべてを大切にしていける精神につながります。
- ・思いやり、慮る、おもてなし：集団の調和を重視するなかで、個人の利益や感情を調整し相手の気持ちに深く配慮して物事を進める“おもてなし”の文化に繋がっています。

現在、私たちが直面している多くの課題に、これら日本的な精神が、新たな示唆を授けてくれる可能性を感じるのには、私だけでしょうか？議論を冒頭に戻して、ChatGPTが提起した“これまでの常識を超える新たな価値の創出”に対しても日本的な精神が新たな可能性に導いてくれるように思います。

私たちマツダは、魂動（こどう）デザイン、人馬一体フィロソフィー、人間中心の考え方、SKYACTIVテクノロジー、おもてなしの心、など独自の視点でクルマづくり・価値づくりに取り組んできました。それらには日本人ならではの価値観、そして広島ではぐくまれたチャレンジ精神が通底しています。勿論、マツダが地球規模の課題を直接解決する先頭に立つなどと妄言を展開するつもりはありません。しかし、少なくとも、私たちが大切にしてきた日本人としての価値観・精神と最新の技術が将来に亘って見事に“共生”“調和”する価値づくりや社会づくりを目指して日々弛まめ努力を重ね深めていくこと、そしてそれを勇気をもって世界に語りかけ続けることには、少なからず価値があるのでは、と感じています。

ずいぶん妄想と大風呂敷を広げてしまいました。生成AIを使いさえすれば良い巻頭言が書ける、という訳ではないことがご理解いただけたと思います。さて、翻ってマツダ技報本号ですが、まさに生成AIの活用に挑戦する寄稿も見受けられますし、それ以外の技術の進化に日々取り組む仲間たちの研究の成果が掲載されています。これらの事例が、近未来の私たちの生活をどのように豊かにするのか、そして社会にどのように貢献していくのか、人間はこれらの技術が進化した姿とどう付き合っていくのか、そして取り組んだ本人たち自身がその研究過程においてどのように成長を楽しむことができたのか・・・などと少しだけ思いを馳せながら、皆さんと一緒に読み進んでいきたいと思えます。